

津田昇平教話 第十三話

令和三年一月十三日 朝の教話

眞の信心親切

おはようございます。令和三年一月十三日の朝をお迎えさせて頂き
ました。

信心する人は神様に参るばかりではない。銭ももらわず
お礼も言うてもらわず、至急な時に格別の親切を尽くし、
急難にかかりておる人を助ける時に早く行きてやり、火
事の場合にも早く行きて、火を消す働きを早くいさぎよ潔くす
れば、まこと真の信心親切となる。何事にも心がけておりな
さい。

一理 I 山本定次郎 やまもとさだじろう 四九一

「うー、うー、理解がございませぬ。有名なご理解で、「信心親切」というふうな言葉もよく御道では使われますけれども、「信心親切」という単語自体はこのみ教えだけだったと思います。

信心するということと基本はね、参拝、御祈念、御取次、お参りをすると

全部くっついてきますんで、やっぱり神参りかみまいというのは大事なんですけ

れども、「信心する」というのは、神様にお参りをするとということだけでも違ふんや」と仰るんですね。これは教祖様が仰ってるわけですけども。

「錢ももらわず、「お金ももらひつとをせはず、「お礼も言ってもらわず、至急な時に、「大至急、すぐく急いでいるということなんでしょうね。」

「至急な時に格別の親切を尽くす」、格別って書いてますんでね。普通やったら、そこまでしてもらえないような関係でもないし、間柄でもないけれども、格別のことをして下さるといふことなんでしよう。「格別の親切を尽くし、急難」急難は、大きな急ぎの要する難儀なんぎということでしょう。火事であったりとかね、病気になって倒れたりとか、そういうふうな突然の難儀と言っているいかもしれませんね。「急難にかかりておる人を助ける時に、早く行ってあげなさい」と。早く行ってあげて、例えば火事の場合でも早く行って、「早く行く」って書いてありますね、早く行って火を消す働きを、お手伝いですね。「火を消す働きを早く潔くすれば、潔くっていいことですから、まあいわゆるお礼を言われる、

言ってもらうということじゃないでしょうね。してやったみたいなの、偉そうにしてるといってもないんじゃないでしょう。お金ももらうということでもなく、お礼を言ってもらうということでもなく、恩に着せるわけでもなく、誰かに言うわけでもなく。人様にね、こんなこととしてあげたと言うわけでもなく、「潔くすれば真まの信心親切となる」。信心親切。信心親切というその言葉自体がどういう意味やっとなってきますけど、でも、信心する人が神様の心を現していく、そして親切を尽くしていくということなんでしょう。「何事にも心がけておりなわい」、「何事にもって書いてますね。

読んでみて思うのは、「早く、早く」ってよく書いてますね。そら至

急な時なんですから、急難であったりして、火事にしてもスピードが大
事ですから、だからもう早はやう行って、早はやうしてあげなさいと。一刻も早
く行って、そしてできる限りの格別なことを、できる限りのことをさし
てもらって、あとはもうお礼言ってもらうとか、お礼もらうとか、人様
に自慢するとかさういうことではなくて、本当に人を助ける、困ってい
る人を見てなんとかしてあげたいと思って、一目散ひとめはなに駆けつけて、でき
る限りのことをさしてもらって、あとはもうスツと帰ってきたらいいと。
それが神様の御心みこころにかなうということですね。これを何事にも心がけて
おりなさいっていうふうにしてあげます。

いっさいいっさいにして、信心するといふのは、自分自身がおかげを頂

いていくということとはまた別に、また家族がというだけでもなく、至
急な時に駆けつけてですから、自分の家とかいいうのでもないんでしょ
うね。家の中というわけでもなく、本当にそれこそ人様、赤の他人でも
いのかもしれません。やっぱりそこへ行って駆けつけてっていうことは、
ここで書かれているのはそういう意味だろうなあと思います。

で、私こう、どういうわけですかねえ、歩いているとよく困っている
人とか倒れている人とかね、血い流している人にも会うことって結構あ
るんですよ。何ヶ月か前にも、御本部参拝ごほんぶに行かせてもらおうとい
う時に、家族で御本部参拝に、お礼参りに行かせてもらおうと思って、教

会を出ましてすぐに、程なくして、道端で座って血を流している方がおられたんですよ。座り込んで。ちょっと普通じゃないなあという感じはしましたんで、車をちょっと止めたいなと思って、止めさして頂いて。急に停まったものですから、妻は大体すぐパッと見て分かったと思うんですけど、子どもたちは「えっ、どうしたん？ どうしたん？」っていう感じではありました。

で、私が車降りて走ってその方のところに、だいぶん百メートルくらいですかね、走って行って、その方は座り込んでました。血を流したり、靴も履くいてませはんでしたしね。そういうふうな方がおられて、声をかけさせてもらって、「大丈夫ですか？」って。何ができるといっわけでも

ないんですけど、とにかくまあ行ってあげんといかんというわけで、行かせてもらって。場合によったら救急車呼んだり、警察呼んだりとか、ご家族の方とか、そういうこともありますしね。じゃあ、まあ声かけさしてもらおうかと思って。それをさして頂いて、それでじゃあ具体的に何かしたんか。まあできる場合もあります。救急車呼んであげられたりとかね、そういうこともあるんですけど。

その方はまだ若いお兄ちゃんやったんですよ。若い言うてもまあ二十代くらいですかね。少しちょっとフラフラしてるような感じではありませんでしたんで、「大丈夫ですか?」っていうような感じで声はかけましたけど、「ああ、ありがとうございます。大丈夫です」というような感じで

言ってみましたけど、まあ見た感じは大丈夫じゃないですよ。全然大丈夫ではないんですけれども、あまりこう、触れてほしくないような感じやっただんかったんかなあと。少し訳ありな雰囲気でもありました。いろんな方にこれまでね、お会いしてますんで、お取次おきじさしてもらってますんで、この様子から見ても、で、また少し手とか足とか、この寒い中でもね、そんな感じでっちゅうのは普通じゃないんですけど。でも見たら、全身入れ墨すみのようなものが見えてたり、血があっちこっちから出てたりとか、少しお酒が入ってるのか、あるいはお酒ではなくちよっと薬物やったのか、ま、そういう感じやろうなあとと思いました。でも、少しでもきることがあったらとか、「ご自宅この辺ですか?」とかって聞いても、

「ああ大丈夫です、ありがとうございます」ってこういう感じでは言われてはいたんですけど。それで、「警察とか救急車とか、呼びましょか?」と言ったら、「いやいやいや、それはもう大丈夫ですんで、ありがとうございます」ってこういうような感じだったんで、それ以上もう突っ込んででもいかなあと思って、「ああ、分かりました。じゃあ気をつけて下さいね」言っていて、トントンして（肩を叩いて励ます）、そんなま
た車に戻りました。あとはもう、できること言ったらそれ以外、「大丈夫ですか?」って声かけるだけしかありませんのでね、後はもうご祈念
さして頂くしかないなあと思って。

それでも、車を走らせながらでもご祈念させて頂く。どういふうな

いきさつがあるのか、体に、全身に、ありとあらゆるところにタトゥーが見えたりとか、この寒い時でも、片方は靴くつは履はいてるけど、片方は裸足はだしになって、靴下はなんか破れてたんやったかなあ。なんかどっかに落ちてたような気がしますし、血を流して顔を押さえていうような感じへいでも喋しゃべることもできましたし、意識がなくなって危ないという感じでもありませんでしたし、ご本人としても座って会話もできましたんで、それ以上触れない方がこの人のためになるのかな、まあ大丈夫そうやなというふうに感じましたんで、行ったんですけど。でも分からないことばかりで、お名前も知りませんしね。何があったかっていうことは分かりません。こっからはもう、想像でしかありませんしね。ただ、なか

なか難儀なことやなあと思ひまして、気の毒やなあと思ひましたし、か
といつて何かできるわけでもありませんので、ご祈念さしてもらつし
かありませんでした。

ご祈念しながら、どうぞこの方がごういふ生まれて育ていく過程の
中で、ごういふめぐり合わせの中で難儀なんぎを今されているのか分からの
ですけれども、どうぞまたここから立ち行かれますように、おかげにな
つていきますように、また神様が助けようとして下さつてはらずですし
ね。それで私もごういふつてご縁を少し頂いて、ご祈念させて頂こういふ
気持ちになりました。他の人がパッと会つても、「あつ、怖いな」とか、
ちよつと離れようと思つたかもしれないし、そもそもちよつと声かけるの

もね、大丈夫かなあとは思っても、たぶん見て見ぬふりをするのが普通かなという雰囲気でした。なので、私はあんまりそういうのは怖いとは思いませんのんで、声かけさせて頂きましたけど、まあでもご祈念させて頂くということが、私の今のお役かなあ、できるお役かなあと思いついて、ご祈念させて頂きました。

こういうこと一つとっても、信心するっていうことの中身ですよ。神様を大切にすると、神様に祈らせてもらうんでも、自分のこととはちょっと別にして、苦しんでいる人、困っている人のことを祈らして頂くという事は、やっぱり大事ななあと思います。信心しているからそうし

たということも全然ないんですけどね。まあ勝手に体が動いて、パツて
そうしただけのことではあるんですけども、でも困った人のことを見
て、やはり祈らせて頂くとすることは大切なことやなあ。

で、なんでそれをするんかって考えた時に、やっぱりあんまり意識せ
ずにはやってはいるんですけど、でももし尋ねられたら、自分自身がや
っぱり神様にいろいろお守り頂いて、おかげを頂いて助けて頂いた。ま
あとここで野垂れ死^{のた}んでたか分からんし、もう人様をそら殺めたりとかね
え、自分を殺めたりすることは多々可能性があった中で、そこをお守り
頂いて、そしてこうして神様の手元に置いて頂いて、使えるところを使
うて頂いて勿体ない限りですから、少しでもお役に立てるところはとい

う気持ちはもともとありますんで、その中で勝手に体が動いたって
ことなんやろうなあとは思いますが。でも、これもまあ常日頃つねひしほ、どっか自
分の中になかったら動けないということが多いんでしょよね。

また、御用さして頂いて、いろんな方のお取次おきじさして頂いて、それこ
そねえ、もうヤクザやチンピラやってそんなことから、もう薬物やらな
んやらいう人もいっぱいおりましたしね。そういうこと考えても、皆か
わいいなあいう気持ちじゃぱりありますから、この方はこの方で、な
んかかわいいなあ、かわいそうやなあ。ちゃんと言葉遣いもできてた
しなあ、でも見た感じはなかなか大変そうやなあという感じもしました。
どうぞ、この人の体もそうやし、分け御霊わみたま様も救われていきますように

って、祈ることしかできないんですけれども、でもやっぱり今こうしてお話をしてるだけでも、その方がことが時々心にね、過おとるんですよね。過おとって、名前も知りませんし、もう二度とお会いすることもできんやろうし。そうかもしれないですね。まあそうなんでしょう。でも、それでもその人のことをふと思った時に祈らして頂くということはできるんで他に苦しんでいる人とか見て、皆さん直接助けてあげられたらええですけど、なかなかできることも限られてるかもしれない。

でも、祈りのカンパということをたまに思うんですよね。よく募金とがありますよね。一人で大きな、そら何百万とか何千万とかってねえ、大きな金額をそら寄付できたらそれはそれで結構なんですけど、でもま

あ普通に生活してたら、なかなかそこまでのことはようせんということはある。でも、困ってる人のお役に立てるんであればという気持ちで、少しでも募金させてもらいたいという気持ちがあったとしましょう。一人ができることってというのは限りはあるんですけど、でも多くの人がちよっとずつでも、それが十円でも一円でも、百円でも千円でもいいんですけど、募金をさせてもらう。一人だけでは限りがあっても、それが百人千人、場合によっては万人という形になれば、すごい金額になってきますよね。災害支援なんか一つとってもそうかもしれないですね。それと同じように、おかげを頂いてもらうためには真マコトが必要で、真マコトってのはやっぱりまあ一言で言ったら祈りですよ。真心マコトココロです。真心から

発する祈りなんですけども。それが自分一人ではなかなか限りがあると
ころでも、気付かして頂いた人が、大変やなあ、かわいそうになあと思
って、ちよつとずつでも祈らしてもらおう。そうすると、神様の方でこの
人を助けるための貯金箱みたいなものを用意して下さって、祈りをちよ
つとずつ貯めて下さる。一人じゃ限られるようでも、五人やら、十人や
ら、百人やらって集まってきたら、この人のことを助けてやって下さいと
いう気持ちで祈らせてもらったら、その祈りのカンパで、祈りの募金で
ちやあんとそれがある程度貯まってきたら、神様がその人のおかげを下
さるんやろうと思うんですよね。そういうことはやっぱり天地の理ことわりや
と思つてますし、まあそういうことはありますんでね。

ですんで、私は私でまあこうして祈らせて頂いて、折節おりらしに、忘れずにふと思った時には、ようこそ祈念させて頂くと思います。

考えたら、私はその人の立場になっててもおかしくないかもしれないし、皆さんだってそうだったかもしれないですね。たまたま生まれる時代であったり場所であったり、出会うご縁であったりが違ったからこうして今の生活をさして頂いて、神様のおかげを頂いて暮らさして頂いてありがたいんですけど。でもひょっとしたら、また生まれが違ったら、たったそれだけでも全然違う人生になってたかもしれません。そう思ったら、困ってるなあ、大変そうやなあという人を見て、他人事ひとごとというふうにして思わずに、実際には自分とは違うという意味においては、

人様のことなんですけれども、でもその方もまた神様のうじこ氏子で、ああかわいそうになあ、大変やなあという気持ちがあったら、その場でもいいから祈らして頂いて、祈りのカンパを神様にね、届けさせて頂いて、どうかで貯めて頂いたものが、神様が人を助ける、その人を助ける力にして下さる。

その祈りの力を信じるというのが信仰なわけだね。それを信じなかったら、信仰というのはもう成り立たんわけですからね。祈りの力を信じる。それこそ本当に信仰そのものやなあと思いますね。

もうここで終わってもいいんですけど、せっかくなんでもう一つみ教

えを紹介さしてもらいましょう。先程のみ教えはね、山本定次郎やまもとさだじろうさんの
伝えですね。次は尋求教語録じんぎゅうきょうごなんで、片岡次郎四郎先生かたおかじろしろうね、片岡次郎
四郎さんの残されたものです。

寒い日であったが、お参りをしておると気の毒なおじい
さんに遭あうたので、あまりのことに着ていた物を脱ぬいで
あげた。それからお参りすると、金光様が、

「才崎金光さいざき（片岡次郎四郎）、今日は結構なおかげを受
けたなあ。不幸せな者を見て、真まにかわいいの心から、
わが身を忘れて人を助ける、そのかわいいと思う心が神

心じゃ。その神心におかげがいただけなのぞ。それが信心ぞ」

とおっしゃったが、おかげを受けた者は、ありがたいことを知っておるはずじゃから、神様の心になって不幸せな者を助けてやらねばならぬ。

一理Ⅲ 尋求じんきゅう教語録うきよごころく 一六八

と仰ってますね。

もうこれで終わっていいんですけどね、なんか今パッと読んでみて、

かたおかじろしろう

あっと思ったのは、片岡次郎四郎さんが困った人を助けてあげる。まあ助けてあげるって言いますかね、着ていた物を脱いであげたっていうことです。そしたら金光様が、「今日は結構なおかげを受けたなあ」と。結構なおかげを誰が受けたか言ったら、片岡さんなんですよね。片岡次郎四郎さん。

おじいさんが寒そうにしてて、服をね、脱いでもらったからおじいさんがおかげを頂いたんじゃないかって、かわいそうにと思って服を脱いで、そのおじいさんあげた。着せてあげた。それで金光様（教祖様）は、その片岡さんに対して、「今日は結構なおかげをあなたが頂いたな」と仰ってるんですね。本当ですね。そのかわいと思う心が神心で、その

心におかげが頂けると仰って、まあ片岡さんも、何もおかげが欲しくてやったとは全然思っていないんですけどね。何もあんまり思わずに、ああかわいそうにと思って、パッてされただけやと思うんですけど、でも神様の方から見たら、その御心みこころはね、神様の心にかないますから、結果としてはそら喜んででも下さり、またおかげを頂く心ですから、おかげになっっていくということは当然のことなんですけれども。

まあでも面白いなあと思ったのは、困った人を助けられた人がおかげ頂いたねえというんじゃないかって、困った人を見てなんとかしてあげたいと思って動いたこと、その人が、助けた方が、「あなたおかげ頂いたなあ。よかったなあ、結構なことやなあ。結構なおかげを受けたなあ」

って言うてもらおうんやから。まあでも確かにそうやなあ、ほんまやなあ
というふうに、ちょっと思わせてもらいました。

今日もどうぞ一日、自分自身もそうですしね、また今日は今日で、ど
こでどんなふうにして人に出会うや分かりませんが、まあどうぞ
今日はこのみ教えを頂きましたんで、困った人を見たりしたらね、どう
ぞ助けてあげられるような心で動いてあげてください。「一日一善」っ
てよう言いますけれどね、なんかいいことを一つ、良いことをさせてもら
ったらいいですよ。

はい、どうぞおかげ頂いてください。ご祈念させて頂きます。よくお

参りでした。

了)



津田昇平教話 第十三話

令和三年一月十三日 朝の教話

令和四年七月二十日 初版発行

発行所 金光教尼崎教会

〒六六〇―〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三―七―五
